

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉寒川の家(1号館)		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成31年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様のペースで生活ができるように心掛けています。 町内会の活動に積極的に参加できるように心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この一年、感染症の罹患や大きな事故もなく利用者も安全にホーム内で生活を送ることができています。職員構成についても今年度離職も少なく安定しています。今年度はホーム内外における利用者の安全性を高めるために、職員間で利用者の特変や日々の生活状況等を注意深く共有し、些細な変化にも迅速に対応し、事故の発生を防ぐことを全体の目標として取り組んでいます。また法人の理念や方針の共有化が図れるように事務所内のキャビネットを効果的に活用し、法人本部から毎週送付される朝礼議事録を全体で共有できるように取り組むなど、昨年度の課題に対しても前向きに取り組み改善につなげています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に沿ってサービス提供をしています。	毎週一度法人の本部より、全職員で周知すべき事項や法人の理念が記載された朝礼議事録が本部から届き、全職員で確認し、法人が目指す方向性を全職員に周知し、理念に沿った介護サービスを提供していくことを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に町内会行事・活動に参加するようにしている。	神社で開催される地域のお祭りに利用者と一緒に参加したり、節分行事への参加など積極的に行事に参加することで地域の方々と交流が図れるように努めています。	今後に向けては地域のボランティアの受け入れなども検討し、地域との交流の幅がより広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、ホームの様子・利用者様の様子等について説明・話し合いをしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様の参加がなく、町内会、民生委員、地域包括支援センターの方々に参加して頂いている。 出された意見についてはその都度サービス向上に生かせるか話し合いを行っている。	会議には町会長、民生委員、地域包括支援センターの方の参加を受け、市の規程に基づき3ヶ月に一度開催しています。会議では利用者及び職員の状況、行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるよう取り組んでいます。	今後に向けては運営推進会議に家族の代表者の参加も得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことは電話でその都度連絡している。	運営上相談事が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。実地指導や集団指導も定期的に開催されており、必要に応じて助言を頂くこともでき、協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故リスクマネジメントを行い、事故リスクが低いドアは日中開放している。	身体的拘束等適正化に向けた指針に基づき、館長、計画作成担当者を構成員として身体拘束適正化委員会を実施しています。委員会では身体拘束が起きやすい傾向を分析し、書面において全職員に周知し職員全体の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っており、定期的に勉強会や資料の配布をし、意識を高く保てるようにしている。	/	/

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方もいらっしゃるもので、必要に応じて利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時に最近の様子を御家族様につたえている。その際疑問や不安に思っていることを聞き、説明・納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった際はすぐに対応ができるように取り組んでいる。	家族からの意見や要望等については面会時に直接確認しています。家族には気軽に意見や要望等を表出できる旨を契約時に説明しています。利用者本人からは日常会話から収集し日々の生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	短時間であるが、個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設けるようにしている。	館長が中心となり日頃から職員に声をかけ、意向や要望等を確認しています。利用者のケア方針や業務手順等、職員からも積極的に意見等が上がり、日々の業務や支援に反映できるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修にて個々の技術、知識の向上を図っている。外部研修を受講する際は、参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、交流の機会を作り、取り組んでいる。		

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの中から要望等を聞き取り、安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに要望等をきき、なんでも話せるような関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の意向を踏まえた上で情報収集を行い、必要な支援が提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができることはしてもらい、一緒にできることは一緒にするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を伝え、定期的に面会にきていただくように伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の面会がないが、利用者様の馴染みの場所や行きたいところにいけるように努めている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように友人の来訪の受け入れや家族の協力を得て馴染みの場所にお連れ頂いたり、これまでの趣味活動を入居後も継続医出来るように配慮する等、馴染みの関係等が途切れない支援につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合いを増やすために、職員が間に入り支援している。		

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、連絡があった際にはその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを尊重し、その人にあった支援ができるように努めている。	利用者本人からの意見や要望については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に反映できるように努めています。また、ケアプランの作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題を抽出し、ケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や面談、ご家族様、介護支援専門員からの情報をもとに、生活歴や暮らし方等の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、その日の状態に応じた対応を心がけ残存機能を活用した支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様の希望、要望をもとに職員、訪問医と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、職員の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に説明し同意を得ています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での申し送り回数を増やし、些細なことでも情報共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し可能な限り対応ができるように努めている。		

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事には可能な限り参加し、利用できる地域資源は利用するようにしているが、まだ把握できていない地域資源もある為、把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で対応している。月2回の訪問診療を受けているが、体調不良等のときもその都度対応して頂いている。	ホーム提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携しています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、利用者の体調変化時にも迅速に対応が図れる体制としています。また必要時には訪問歯科も利用でき、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師がいない為、日々の様子等については直接訪問医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会や電話にて状況報告を受けている。入退院時は訪問医と連携し、円滑に行えるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療サービスの提供は困難な為、話し合い、説明を行いご本人様、ご家族様の要望に応えられるように支援している。	ホームでは、家族の意向に沿って最期までホームで生活を送ることができる体制を整えています。ホームで取り組めることについては利用契約時に家族に説明しているほか、ホーム内においてターミナルケア研修も実施し、職員の意識も高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行っている。希望者は外部研修に参加し、実践力が身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に則り避難や消火訓練を定期的実施している。様々な場面を想定し、安全に落ちついて行動ができるようにしている。	平成30年4月と10月の年2回、自主訓練とし職員間で避難誘導方法の確認を行うほか、地域の避難訓練にも参加しています。水害のリスクについてはハザードマップで確認しています。災害備蓄品については水や食料など約二日分の備蓄をしています。	年2回避難訓練を実施していますが、今後は消防署の立会いを受けての訓練や夜間を想定した訓練の実施も望まれます。

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇等の内部研修をおこなっている。言葉遣いは意識して取り組んでいる。	「接遇・記録の書き方」をテーマとしたホーム内研修や虐待の芽チェックリストを活用し言動や行動等の振り返りを通じて適切な対応が図れるよう取り組んでいます。利用者の居室への出入りについても、一声かける、ノックをしてからの入室を全体で徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように日々の生活の中でご本人様に要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活が送れるように、サービス提供を行っている。買物や散歩はその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る洋服をご本人様に選んでもらったり、外出時は帽子、上着等を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付け、食器拭き、野菜の皮剥き等利用者様ができて、したいことができるように支援している。	月に一度のペースで各ユニットで食事レクを開催し、利用者が食べたいと要望するメニューの提供やおやつ作りへの取り組みを通じて楽しみにつなげています。日々の食事においてもできる方には盛り付けや食器拭きなどに関わるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態、提供量、水分量を提供している。水分摂取が少ない利用者様には声かけをし脱水状態にならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけ、必要に応じて口腔ケアを行っている。月3～4回訪問歯科診療を利用し、歯科医から口腔内の状態、口腔ケアの仕方について指示を受けている。		

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるように声かけ、誘導を行っている。	排泄状況のチェックが必要な利用者には「排尿・排便チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを職員間で共有しています。定時の声掛けや誘導により、利用者の状態に合わせ極力トイレ内で排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて、排便管理を行っている。訪問医と連携し、下剤を処方してもらったり、浣腸を施行してもらい便秘にならないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴の機会を設け、時間、曜日は決めているが個々のペースで入浴できるように支援している。	利用者の体調やペースを大切に、週に3回(男女交代で一日おきで)入浴できるように支援しています。入浴状況については「介護記録」に記録しています。入浴中は職員も介助につき、安全に入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時に職員間で情報共有を行い、様子や変化を訪問医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを無理せず自分のペースで行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食、買い物等外に出る機会を増やしている。	天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、近隣神社で開催されるお祭りや行事への参加、外出行事としてバラ園に出かけたり、ファミリーレストランへの外食など、戸外に出かけられる機会も提供し利用者の生活の幅を広げています。	

グループホーム千葉寒川の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している利用者様はいませんが、利用者様が希望した際に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望されたときはホームの電話を使用したり、外の公衆電話で電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がでるような飾り物や利用者様と一緒に作ったものを掲示している。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは個々のペースでゆったり過ごせるように環境整備を行い、テラスでは日光浴ができるように椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使っていた物を置き、自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのもをの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごしたり、移動できるように環境整備を行い、トイレ等には目印をつけている。夜間はとこところ電気をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100237		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉寒川の家(2号館)		
所在地	千葉県千葉市中央区寒川町1丁目249-2		
自己評価作成日	平成31年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成31年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様のペースで生活ができるように心掛けています。 町内会の活動に積極的に参加できるように心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>この一年、感染症の罹患や大きな事故もなく利用者も安全にホーム内で生活を送ることができています。職員構成についても今年度離職も少なく安定しています。今年度はホーム内外における利用者の安全性を高めるために、職員間で利用者の特変や日々の生活状況等を注意深く共有し、些細な変化にも迅速に対応し、事故の発生を防ぐことを全体の目標として取り組んでいます。また法人の理念や方針の共有化が図れるように事務所内のキャビネットを効果的に活用し、法人本部から毎週送付される朝礼議事録を全体で共有できるように取り組むなど、昨年度の課題に対しても前向きに取り組む改善につなげています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に沿ってサービス提供をしています。	毎週一度法人の本部より、全職員で周知すべき事項や法人の理念が記載された朝礼議事録が本部から届き、全職員で確認し、法人が目指す方向性を全職員に周知し、理念に沿った介護サービスを提供していくことを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に町内会行事・活動に参加するようにしている。	神社で開催される地域のお祭りに利用者と一緒に参加したり、節分行事への参加など積極的に行事に参加することで地域の方々と交流が図れるように努めています。	今後に向けては地域のボランティアの受け入れなども検討し、地域との交流の幅がより広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用し、ホームの様子・利用者様の様子等について説明・話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様の参加がなく、町内会、民生委員、地域包括支援センターの方々に参加して頂いている。 出された意見についてはその都度サービス向上に生かせるか話し合いを行っている。	会議には町会長、民生委員、地域包括支援センターの方の参加を受け、市の規程に基づき3ヶ月に一度開催しています。会議では利用者及び職員の状況、行事報告のほか参加者との意見交換を通じてサービス向上につなげていけるよう取り組んでいます。	今後に向けては運営推進会議に家族の代表者の参加も得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことは電話でその都度連絡している。	運営上相談事が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。実地指導や集団指導も定期的に開催されており、必要に応じて助言を頂くこともでき、協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故リスクマネジメントを行い、事故リスクが低いドアは日中開放している。	身体的拘束等適正化に向けた指針に基づき、館長、計画作成担当者を構成員として身体拘束適正化委員会を実施しています。委員会では身体拘束が起きやすい傾向を分析し、書面において全職員に周知し職員全体の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っており、定期的に勉強会や資料の配布をし、意識を高く保てるようにしている。		

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方もいらっしゃるもので、必要に応じて利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時に最近の様子を御家族様につたえている。その際疑問や不安に思っていることを聞き、説明・納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった際はすぐに対応ができるように取り組んでいる。	家族からの意見や要望等については面会時に直接確認しています。家族には気軽に意見や要望等を表出できる旨を契約時に説明しています。利用者本人からは日常会話から収集し日々の生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	短時間であるが、個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設けるようにしている。	館長が中心となり日頃から職員に声をかけ、意向や要望等を確認しています。利用者のケア方針や業務手順等、職員からも積極的に意見等が上がり、日々の業務や支援に反映できるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い、個々の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修にて個々の技術、知識の向上を図っている。外部研修を受講する際は、参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、交流の機会を作り、取り組んでいる。		

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの中から要望等を聞き取り、安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに要望等をきき、なんでも話せるような関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の意向を踏まえた上で情報収集を行い、必要な支援が提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができることはしてもらい、一緒にできることは一緒にするようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子を伝え、定期的に面会にきていただくように伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の面会がないが、利用者様の馴染みの場所や行きたいところにいけるように努めている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように友人の来訪の受け入れや家族の協力を得て馴染みの場所にお連れ頂いたり、これまでの趣味活動を入居後も継続医出来るように配慮する等、馴染みの関係等が途切れない支援につなげています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合いを増やすために、職員が間に入り支援している。		

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、連絡があった際にはその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いを尊重し、その人にあった支援ができるように努めている。	利用者本人からの意見や要望については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に反映できるように努めています。また、ケアプランの作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題を抽出し、ケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や面談、ご家族様、介護支援専門員からの情報をもとに、生活歴や暮らし方等の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、その日の状態に応じた対応を心がけ残存機能を活用した支援ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様の希望、要望をもとに職員、訪問医と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、職員の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に説明し同意を得ています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での申し送り回数を増やし、些細なことでも情報共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し可能な限り対応ができるように努めている。		

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事には可能な限り参加し、利用できる地域資源は利用するようにしているが、まだ把握できていない地域資源もある為、把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で対応している。月2回の訪問診療を受けているが、体調不良等のときもその都度対応して頂いている。	ホーム提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携しています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、利用者の体調変化時にも迅速に対応が図れる体制としています。また必要時には訪問歯科も利用でき、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師がいない為、日々の様子等については直接訪問医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会や電話にて状況報告を受けている。入退院時は訪問医と連携し、円滑に行えるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療サービスの提供は困難な為、話し合い、説明を行いご本人様、ご家族様の要望に応えられるように支援している。	ホームでは、家族の意向に沿って最期までホームで生活を送ることができる体制を整えています。ホームで取り組めることについては利用契約時に家族に説明しているほか、ホーム内においてターミナルケア研修も実施し、職員の意識も高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行っている。希望者は外部研修に参加し、実践力が身に付くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に則り避難や消火訓練を定期的実施している。様々な場面を想定し、安全に落ちついて行動ができるようにしている。	平成30年4月と10月の年2回、自主訓練とし職員間で避難誘導方法の確認を行うほか、地域の避難訓練にも参加しています。水害のリスクについてはハザードマップで確認しています。災害備蓄品については水や食料など約二日分の備蓄をしています。	年2回避難訓練を実施していますが、今後は消防署の立会いを受けての訓練や夜間を想定した訓練の実施も望まれます。

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や接遇等の内部研修をおこなっている。言葉遣いは意識して取り組んでいる。	「接遇・記録の書き方」をテーマとしたホーム内研修や虐待の芽チェックリストを活用し言動や行動等の振り返りを通じて適切な対応が図れるよう取り組んでいます。利用者の居室への出入りについても、一声かける、ノックをしてからの入室を全体で徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように日々の生活の中でご本人様に要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活が送れるように、サービス提供を行っている。買物や散歩はその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る洋服をご本人様に選んでもらったり、外出時は帽子、上着等を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、片付け、食器拭き、野菜の皮剥き等利用者様ができて、したいことができるように支援している。	月に一度のペースで各ユニットで食事レクを開催し、利用者が食べたいと要望するメニューの提供やおやつ作りへの取り組みを通じて楽しみにつなげています。日々の食事においてもできる方には盛り付けや食器拭きなどに関わるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態、提供量、水分量を提供している。水分摂取が少ない利用者様には声かけをし脱水状態にならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけ、必要に応じて口腔ケアを行っている。月3~4回訪問歯科診療を利用し、歯科医から口腔内の状態、口腔ケアの仕方について指示を受けている。		

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるように声かけ、誘導を行っている。	排泄状況のチェックが必要な利用者には「排尿・排便チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを職員間で共有しています。定時の声掛けや誘導により、利用者の状態に合わせ極力トイレ内で排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて、排便管理を行っている。訪問医と連携し、下剤を処方してもらったり、浣腸を施行してもらい便秘にならないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴の機会を設け、時間、曜日は決めているが個々のペースで入浴できるように支援している。	利用者の体調やペースを大切に、週に3回(男女交代で一日おきで)入浴できるように支援しています。入浴状況については「介護記録」に記録しています。入浴中は職員も介助につき、安全に入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時に職員間で情報共有を行い、様子や変化を訪問医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを無理せず自分のペースで行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外食、買い物等外に出る機会を増やしている。	天候や気候の良い時期にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、近隣神社で開催されるお祭りや行事への参加、外出行事としてバラ園に出かけたり、ファミリーレストランへの外食など、戸外に出かけられる機会も提供し利用者の生活の幅を広げています。	

グループホーム千葉寒川の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している利用者様はいませんが、利用者様が希望した際に使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望されたときはホームの電話を使用したり、外の公衆電話で電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がでるような飾り物や利用者様と一緒に作ったものを掲示している。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは個々のペースでゆったり過ごせるように環境整備を行い、テラスでは日光浴ができるように椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使っていた物を置き、自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。	居室は、ご利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのもをの持ち込みを可能とし、ご利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごしたり、移動できるように環境整備を行い、トイレ等には目印をつけている。夜間はとこところ電気をつけている。		